

公益社団法人 広島県社会福祉士会 会報

2022年1月24日発行



# いつのときも、 どんなときも



2022年  
特別号

公益社団法人 広島県社会福祉士会 発行

〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内

TEL : 082-254-3019 FAX : 082-254-3018

## ジェネリックな視点と専門技術で

## 地域住民や専門職と協働・連携して



皆様、新年明けましておめでとうございます。

会長 三上 和彦

2021年は、一昨年より継続する新型コロナウイルス感染症の拡大から始まり、感染者の増減を繰り返す中、夏には第5波の猛威が全国を襲う中で開催された一年遅れの東京オリンピックは無観客等異例尽くしの祭典となりました。一方ワクチン接種は計画より遅れながらも着実に広がり、秋口より急激に感染者数が減少し日常生活が戻りつつあるかと感じたのも束の間、新たな変異株が忍び寄る不安を抱きつつ新年を迎えたところです。2021年は人々が生涯忘れることのない一年、そして人類の歴史においても深く刻まれることとなった特別な年であったといえます。

2022年、新型コロナウイルスの感染動向の予想は困難ですが、3回目のワクチン接種が進められ収束に向かうことを祈るばかりです。今後は、「ウイズコロナ」もしくは「アフターコロナ」の社会を見通して、新たな生活スタイルの構築に向かい、私たち一人ひとりが取り組みを始めていく状況が続くと思います。

生活様式の変貌は、変化に耐えることが難しい社会的な弱者を浮き彫りにする側面を持ちます。世の中には生活上様々な困難や不安、悩みを抱えている方がたくさんおられます。その原因は、ひとつとは限らず多くの事情が複雑に絡み合うことも多いと思います。望むサービスを知らない、福祉制度が十分ではない、金銭的にサービスを受けることができないなど様々な理由があります。

私たち社会福祉士は、何らかの理由により日常生活を営む上で支障がある人たちを社会福祉の側面から相談援助を行い、必要な支援のコーディネートをしていくことが使命です。このような方々と適切なサービスとの橋渡し役となり、相談者と社会を繋げることが社会福祉士の大きな役割・意義のひとつです。地域に適したサービスはあるか、金銭面に問題はないか、本人の意向に沿っているかななどを十分考慮しながら対応していきます。人口減少、所得格差、少子高齢化、児童・高齢者虐待など社会問題を社会福祉士は解決に導くことが求められ、重要な役割を担っています。それは、児童、高齢、身体障害、知的障害、精神障害……と区分して対応することではなく、一人ひとりの生活実態を踏まえて福祉的ニーズを把握することです。社会福祉士としてのジェネリックな視点と専門技術が発揮できる場面です。



また、地域共生社会の実現においても多くの役割と期待を頂いています。新型コロナウイルス感染症拡大は、社会の変貌をもたらしました。これからも世界的規模の災いと、私たちが生活する社会で起こる困難は様々な形で発生することでしょう。全てに対策と備えを講じることは不可能ですが、これからも私たち社会福祉士は多様化・複雑化する課題に対応するため、他の専門職や地域住民との協働、福祉分野をはじめとする各施設・機関等との連携といった責務を遂行してまいります。

## 当事者やご家族が集える場所づくりも大切です

### ：若年性認知症サポートルーム 運営委員会



認知症と聞いて、高齢者が罹る病気だと思いませんか？ 実は違うのです。若年性認知症とは65歳未満で発症した認知症で、多くの場合原因は脳の病気であり進行性です。全国でおよそ10万人に1人の割合で発症するとされています。

当サポートルームは、広島県からの委託を受け、平成29年10月に開設されました。現在2名体制で運営しております。主な活動内容は、相談支援・支援ネットワーク作り・普及啓発の3つとなります。

まず、「相談支援」として、①本人・家族、支援者等からの相談 ②制度やサービスの紹介、手続き等の支援 ③相談内容に応じた支援機関への繋ぎ、連携を図ります。「支援ネットワーク作り」では、①若年性認知症に関する勉強会や研修の企画、参加 ②認知症カフェ等の訪問、見学 ③地域での集いの場作りのお手伝いを行っています。「普及啓発」については、①認知症サポーター養成講座や地域のサロン活動、各種研修会での若年性認知症についての情報提供 ②イベント等のブース出展（現在はコロナ禍で難しい状況） ③新聞、テレビ等のメディアや機関紙を通じた相談窓口の周知活動となります。

今後の課題としては、若年性認知症という病気の周知（認知症は高齢者の病気とされている）や、関係機関とのネットワーク作り、そして企業に向けての周知活動等があります。若年性認知症の発症後も、就労継続を希望される方が多いのですが、理解が進んでいないのが実情です。高齢者が集えるところは多くありますが、若年性認知症に特化した場所が少なく、当事者やその家族が集まれる場所作りのサポートも大切な課題です。（委員長 岡野 宏哉）

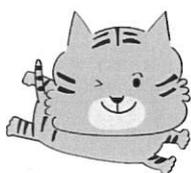


## 矯正施設を出た人の社会的孤立・生きづらさを知ってほしい

### ：司法と福祉をつなぐ 広島県地域生活定着支援センター

広島県地域生活定着支援センターは、高齢の方や障害のある方が、矯正施設から退所した後に、福祉サービスの利用を援助することなどにより、地域の中で安定した生活を営むことができるよう支援しています。広島県社会福祉士会が広島県からこの事業を受託して、今年で12年目となりますが、まだまだ当センターのことは知られていないと感じています。「矯正施設に行くような人は、自分とは関係ない人だ」と思われる方も多いです。私自身、このセンターに入るまで、そうでした。しかし、このセンターで多くの人に会い、必要な支援を十分受けることができていなかった人がとても多いと感じ、「知ること」の大切さを実感しています。少しでも、当センターのこと、矯正施設等を出所した人の社会的孤立や生きづらさを知っていただきたく、下記のとおり講演会を開催します。新型コロナウイルス感染症の影響で、はじめてのオンライン開催となりますが、ぜひ多くの方のご参加ください。（センター職員 仁井 恭子）

### 『 やりなおせる社会へ 』 ： 広島県地域生活定着支援センター講演会



- ・日時 2022年3月5日（土）14時から15時30分
  - ・内容 「居場所作り ～夢と希望は元気のもと～」
  - ・講師 特定非営利活動法人食べて語ろう会 理事長 中本 忠子 氏
- 参加申込は、案内チラシまたは県社会福祉士会のHPをご覧ください。

## ◆今年度は初めてリモートで「基礎研修」を実施中

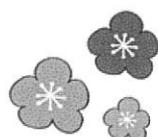
### 生涯研修委員会

新型コロナウイルス感染症の流行に配慮して今年度はZOOMを使った Web 研修の形で「基礎研修」を実施しています。今やリモート形式の会議や研修開催は日常的になっていて、自宅や職場など任意の場所で参加ができたり、何より移動時間や交通費が節約できるといった事は大きなメリットです。しかしその反面、講師や受講生同士の交流が取りにくいと、特に私たち社会福祉士が大切にしたい“コミュニケーション”が希薄になってしまいます。また、講義の発信も一方的になりがちで、はたして受講生の皆さんにきちんと届いているのか、そのほか単純な機材操作のミスで講義の進行がぎこちなくなってしまう場面も多々あり、これらに関しては本当に申し訳なく思っています。これは全国の各社会福祉士会でも同じ状況で、次年度以降も暫くはこの流れになるかと思われませんが、今できる事をできる範囲で…と、社会福祉士の資質向上へ向けて、今後も取り組んでいきたいと思っています。(委員長 川西 顕)

### 委員会の活動紹介

## ◆事業所にきらりと光る強みを新たに発見！

### 第三者評価委員会



今年度、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、保育所 2 事業所、養護老人ホームの第三者評価に伺いました。評価者の専門分野はそれぞれ異なりますが、養成研修で学んだ知識と経験から、課題はどこか？また、強みは何かを聞き取りしながら、確認していきます。評価を受ける事業所の方は、聞き取りにより自らのサービスを振り返り、新たな発見につながる可能性があります。どの事業所も、きらりと光るすばらしい強みをもっておられることがわかります。そんないいところを、もっと伸ばしてさらなる質の向上につながるきっかけになるよう、活動していきたいと思えます。今年、養成研修を 11 名の方が受講されました。受審を希望される皆様の声に対応できるように、体制も整えていきたいと思えます。ご期待ください！(委員長 兼池 麻子)

## ◆社会福祉士国家試験 受験サポートの一環も

### 次世代育成委員会

当委員会の主な活動内容としまして、①社会福祉士を目指す人の受験のサポート ②実習指導者講習会の実施・運営 ③他の関連団体との共同で、社会福祉士・精神保健福祉士などソーシャルワーカーを PR する「ソーシャルワーカーデー」の実施・運営を行っています。

このうち、社会福祉士を目指す方の受験のサポートとして、この秋、10月に国家試験統一模擬試験を在宅受験として実施しました。そして、11月28日(日)にオンラインにて「受験体験談報告・交流会」という内容で、少人数の参加ではありましたが、私たち社会福祉士の受験体験談や、受験する皆様の相談事へのアドバイスなどを行いました。従来は「個別勉強会」として、集合・対面式で行っていましたが、オンラインでの実施は初めての試みでした。このイベントの企画・準備～実施に至るまでのプロセスにおいて、社会福祉士の国家試験を控えている方だけではなく、学生・社会人を問わず、近い将来受験を考えている方や社会福祉士を目指したいと考えている方にも、何らかの対策やサポートのニーズがあると実感しました。今後も、社会福祉士に関心を持ち一歩を踏み出そうとされている皆様のサポートを行っていききたいと思えます。(委員長 石丸 直人)



## ◆成年後見制度活用講座をオンラインで

### 独立型社会福祉士委員会

皆様、どのような新年を迎えられましたか。今年こそは、ご利用者様等との面接で制限等がなくなることを願っております。さて、昨年11月7日(日)に成年後見制度活用講座をオンラインで開催いたしました。会員の方をはじめ、非会員も合わせて30名の方に参加いただき、ありがとうございました。講座では、「成年後見制度利用促進計画」・「意思決定支援」・「本人情報シート」について、学びを深めました。当委員

会としては、初めてのオンラインでの研修で、参加いただいた方にご迷惑をおかけする場面もあり、申し訳ございませんでした。また、遠方からも参加できた等のオンラインならではの嬉しいお言葉もいただきました。これらを踏まえ、次年度の講座につなげたいと考えています。独立型社会福祉士について、関心をお持ちの方は、ぜひ委員会の様子を見に来ていただければ幸いです。(委員長 牧 洋至)

## ◆相談機関や支援とつなげていくためには ホームレス支援委員会

ホームレス支援委員会では、ホームレス状態の方をはじめとする生活困窮者と諸活動を通じて出会い、支援を開始するのですが、最近、県民の方々から本会事務局に「〇〇に、ホームレス状態と思われる人がいて気になっている。何とかしてほしい。」という連絡が相次いでいます。同様の連絡が、他の支援団体や行政に届く場合もあります。これが「排除」を求めるものではなく、「心配だ」という趣旨であれば、それぞれ聞いた者の責任として時間を割いて会えるように努力をしています。ただ、なかなかタイミングが合わず、声をかけても支援を断られることもあります。様々な理由により、昼夜を問わず外で生活せざるを得ない事情を抱えた方々が、相談機関や支援団体とつながっていくためには…どう対処すればよいのでしょうか？ 因みに、広島市では年末年始及び4・5月の5連休以上の長期閉庁期間において、急迫状態にあると認められる者からの生活保護申請の受付は、シェルター受託団体と広島市との間で連絡を取り合えるようにしています。(委員長 鈴川 千賀子)



## ◆福祉・医療・司法のネットワーク支援こそ 司法福祉委員会

司法領域に社会福祉士が配置され、罪に問われた高齢者・障害者等への地域生活定着支援、いわゆる「入口・出口支援」が進み、そして地域社会で当事者を包摂する地域ケア(「社会内処遇」と言われている)の仕組みを計画的に作る地方自治体の再犯防止推進計画の策定が進められています。適切な時期に適切な福祉・医療・司法等の支援があれば、罪を犯すことなく地域生活を送れたと考えられる人もいる現状の中、様々なネットワークの支援が不可欠であり、関わる支援者の専門性がますます重要となってきています。

2月26～27日(土・日)には、第3回目となる「認定社会福祉士対応 司法ソーシャルワーク研修」をZOOMで開催します。社会福祉士等が、罪に問われた人の地域定着支援に有効に参加できるよう、司法領域に関する必要な基礎的な知識および社会福祉支援技術(ソーシャルワーク)を学ぶ予定です。(委員長 吉岡 孝二)



### ちょこっとQ&A

**【問題】** 「ヤングケアラー」についての以下の事例においてスクールソーシャルワーカーの問題の捉え方として適切なものはどちらか？

**【事例】** 中学生の生徒 A は、学校生活上問題はなかったが、家庭の事情で欠席することが多く、生徒に聞くとひとり親家庭で幼い兄弟の世話があるという。

① 生徒の内面的な成長や気づきが解決の鍵である。

② 生徒を取り巻く環境との相互作用の中に生じている問題を課題と捉えて対応する。

**【解説】** 正解は②、教育現場におけるスクールソーシャルワーカーの責務は、生徒や家庭が抱える問題に対して生徒とその環境に働きかけることを通して、問題を抱える生徒を支援していく。選択肢の①はスクールカウンセラーの立場からの問題の捉え方になります。

### ＝ 編集後記 ＝

■新型コロナがより拍車をかけた「貧困の連鎖」。地域から見え出てくる様々な課題や問題に対応すべく私達のあり方について考える日々(巴) ■体温測定、手指消毒も当たり前になりました。寒さ対策にも気合いをいれています。冬本番です(幸本) ■今年こそは、穏やかで平和な年になりますように祈っております(酒井) ■雪が降るほど寒い時期になりました。コロナや風邪などの感染症に負けない身体づくりには、やはり質の良い睡眠ですね(藤浴) ■今年も皆さまに役立つ情報をお送りできるよう頑張っております！(坂本) ■初めての担当、いくつになっても「初」は新鮮です。新しい出会いのある一年となりますように(杉本)

会員便り 84号は3月末の発行予定です